

人権だより 33号 ふれあい



発行 令和6年3月
真備中学校区
人権学習推進委員会
事務局 倉敷市真備公民館
倉敷市真備町箭田1685
TEL 086-698-0042

真備・真備東中学校区 合同研修会

令和6年2月4日(日) 場所 真備公民館

新のぼり旗デザイン表彰、人権作文発表、京都フィールドワーク報告が行われました。人権作文では、性の多様性、言葉の暴力、思いやり、子どもの虐待等をテーマにした発表でした。それぞれの視点から、自分の思いや課題解決に向けた取組をしっかりと考えて発表していました。大きな声で堂々と発表している態度はとても立派でした。

「誰もが、自由に、明るく平等に生きていける

社会の実現に向けてがんばります。」(真備陵南高等学校 西山さんの発表より引用)

参加者感想

- ・身近な話題について、小・中・高生、それぞれの視点からしっかり考え、問題提起がされ、「自分はこうしていきたい」という主張を聞かせていただきました。これから生きていく若い世代が、全ての人にとって住みよい世の中をつくるための提案をしてくれ、とても頼もしく感じました。
- ・誰もが相手を尊重し、思いやりの気持ちをもつことができれば、いじめや差別はなくなるのではないかという子どもたちのストレートな言葉に心が動かされました。一人ひとりが人権意識と向き合い、その解決に向けて一歩踏み出しているところがすばらしいと思いました。

人権作文発表者

真備陵南高等学校	2年	西山 奈々美	「普通」を変えたい
菌小学校	6年	湯口 はな	言葉の重み
呉妹小学校	6年	長谷川 睦一	つなげよう、思いやり
真備東中学校	2年	石原 千乃	幸せを守る
真備中学校	2年	小島 彩椰	どんな相手とでも



「つなげよう、思いやり」

呉妹小学校

六年 長谷川 睦一

「思いやりの輪をつなげていこう。」これは、僕が、日々の生活の中で大切にしている言葉です。この言葉を大切にしようになり、毎日を楽しんで過ごすことができている。この言葉を大切にしようになり、毎日を楽しんで過ごすことができている。この言葉を大切にしようになり、毎日を楽しんで過ごすことができている。

低学年の時、友達とボール遊びがしたかったのに、うまく気持ちが伝えられず、輪に入ることができなかったことがありました。当時の僕は、うまく気持ちを言葉で伝えられなかったり、相手の冗談を真に受けてしまったところがありました。自分も直すべきところがあることは分かっていたのですが、友達とうまく遊べず、当時は、少しさみしい気持ちになっていました。

そんな時に、様子を見ていたある一人の友達が、「どうしたの。大丈夫。一緒に輪に入ってくれようよ。」と書いてくれました。その言葉が、

僕はとてもうれしく、今も心に残っています。これから先、僕と同じようなことで悩んでいる人を見たら、あの時うれしかった言葉を今度は僕がその人にかけて、元気づけてあげたいと思いました。そうすることで思いやりの輪をつなげていくことができると感じました。そして、僕は今、友達同士でけんかをして困っている人を見かけたら、話を優しく聞き、励ますようなアドバイスを積極的に行っていきます。そうやって優しい思いやりの気持ちをどんどんつなげていっています。

このように僕が、意識的に生活していくと周りの友達の笑顔も増えていったように感じます。僕はみんなが思いやりをもって、お互いに相手のことを尊重し合うことができれば、世の中はいじめや争いのない平和な社会になると思っています。

今回学んだことを、残りの小学校生活、そして、これから始まる中学校生活の中で生かしていけるよう、心がけていきたいです。